

第28回研究発表会

「全国唯一」の学生主体の
環境・エネルギーマネジメントシステムの運用
～将来の地球環境を見据えて～

千葉大学環境 ISO 学生委員会 前委員長 ひぐま そういちろう
日隈 壮一郎

弊団体は、千葉大学のISO運用を根幹として、多くの3Rに関することや環境教育、緑化活動といった環境に配慮した活動を行っています。さらに、NPO法人化を契機にさまざまな企業と協働し、活動の幅も広がっております。その上で、これからも「学生主体」で自分たちに何ができるのかを日々考えています。



写真1 全体の集合写真

■千葉大学環境ISO学生委員会とは…

2003年10月、千葉大学においてISO14001認証取得への動きが始まるとともに発足し、環境マネジメントシステムの構築・運用に貢献しています。現在では、目的目標実施計画の原案作成、

環境研修の講師、内部監査、外部審査対応、環境報告書作成、省エネ省資源・緑化・堆肥化等の活動、地域との連携、学内への啓発活動などを担当し、総勢約200名で以上の活動を行っています(写真1)。

2009年4月、学内における環境マネ

※ISOとは…

「国際標準化機構」のことで、ここで国際標準 (ISO シリーズ) が定められています。ISO14001は環境マネジメントシステムの国際規格であり、それは組織を取り巻くすべてのヒト、モノ、環境などに対し、組織が与えている影響を明確にし、悪い影響を与えているのであれば、それを解決させていくためのシステムです。ISO50001はエネルギーパフォーマンスに焦点をあてたもので、エネルギー管理体制の継続的改善を目指すものです。

ジメントシステム運用で培ったノウハウを、地域社会に還元するべくNPO法人化もしています。以降、三菱製紙販売(株)や佐川急便(株)、(株)京葉銀行などの企業とも協働しています。

加えて、2013年にはISO50001を全国の大学で初めて取得し、その2つのISO規格を取得しているのは全国で千葉大学のみとなります。

■環境マネジメントシステム運用に
付随した多岐にわたる活動!

学内の全職員に対して年度初めに行う環境研修、学生も主体的に関わる内部監査、目次構成やインタビュー・執筆や編集をほとんど学生で行う環境報告書作成に付随して、直接的に環境に配慮した活動も大学当局にも協力を仰ぎながら行っています。例えば「学内のレジ袋有料化」では、2005年、弊団体メンバーがレジ袋有料化の提案を生協に行い、まず試験的に1枚5円で有料化してアンケートを実施したところ、約70%のレジ袋削減に成功し、アンケート回答者の約80%が有用であると回答、生協の協力の下、2006年度から継続的実



写真3 ラベルを見て学ぶ子どもたち

施が開始されました(写真2)。現在では約99%のレジ袋が削減され、本来レジ袋を買わずだったお金とレジ袋の売上金でできた基金を環境啓発グッズやイベントに充てています。

■将来の地球を担う世代に教育を!

これらの活動の結果、一般廃棄物の排出量や水、エネルギーなどの使用量削減に達成しました。これを水平展開することも大事である一方、未来の世代にも繋いでいくという垂直展開も重要です。NPOでのeco教室では、地域の小中学校に赴き、環境ラベルを知ることなどを通じて環境問題について問題意識をもってもらいます(写真3)。最近では、商品についているラベルの意味を知ってもらい、買い物の際に気をつけてもらうという身近なところから、環境問題に関心をもってもらえるように活動しています。それがひいては将来の地球環境に良い影響をもたらすと信じて。



写真2 環境基金で作成したエコバッグ